

1. 略歴

1994年3月	東京大学文学部国史学専修課程卒業
1996年3月	東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻修士課程修了
1999年12月	東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻博士課程単位修得の上退学
2000年1月	日本学術振興会特別研究員 (PD)
2003年3月	博士 (文学) (東京大学) (博人社 390 号)
2004年4月	宇都宮大学教育学部助教授 (社会科教育講座)
2007年4月	宇都宮大学教育学部准教授 (同)
2011年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近世史

b 研究課題

近世前期を中心に、土地制度、身分と身分制、商品流通などの観点から近世社会の特質を検討している。

c 概要と自己評価

2018年度から、私が代表者となって科学研究費補助金による「幕府役所史料の整理・活用による近世法制史・身分論の新展開」、2019年度には分担者である「戦乱から平和・安定への転換に関する地域比較史研究—九州を中心に」という2つの研究活動を開始し、その史料調査を進めた。前者は地道に継続して行う史料整理の意味をもつ点で、後者は私がこれまで取り組んだことのないフィールドである点で、また両者とも法制史・対外関係史という不案内な分野に越境する取り組みでもあって、すぐに成果が得られるわけではないが、引き続き自分なりに視野の拡大と深化を進めることができたと思う。

d 主要業績

(1) 著書

共著、高埜利彦、牧原成征ほか、『近世史講義』、筑摩書房、2020.1

(2) 論文

牧原成征、「2017年の歴史学界—回顧と展望—日本 近世」、『史学雑誌』、127-5、2018.5

牧原成征、「「山里」村落の社会構造」、『歴史評論』、825、52-64頁、2019.1

牧原成征、「畿内の太閤検地とかわった村—三田智子『近世身分社会の村落構造』を読んで」、『部落問題研究』、228、38-48頁、2019.3

(3) 書評

小酒井大吾、『近世前期の土豪と地域社会』、『日本歴史』、2019.7

(4) 学会発表

国際、牧原成征、「日本の近世化と土地・商業・軍事」、第3回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性円卓会議《17世紀東アジアの国際関係—戦乱から安定へ—》、大韓民国ソウル市Kホテル、2018.8.26

国内、牧原成征、「十七世紀研究・地域史の立場から—書評：三田智子『近世身分社会の村落構造—泉州南王子村を中心に—』を読む」、第56回部落問題研究者全国集会 (分代会歴史 I)、2018.10.28

(5) 予稿・会議録

国際会議、牧原成征、「日本の近世化と土地・商業・軍事」、2018.8.26

『SARA レポート』、86、112-125頁、2019.9

(6) 会議主催(チェア他)

国内、「史学会大会」、実行委員、東京大学法文1号館、2018.11.25

国内、「史学会大会」、実行委員、東京大学法文1号館、2019.11.10

(7) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、牧原成征、研究代表者、「幕府役所史料の整理・活用による近世法制史・身分論の新展開」、2018～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、慶応大学文学部、「日本史特殊」、2018.4～2019.3

非常勤講師、立教大学文学部、「史学講義」、2018.9～2019.3

非常勤講師、立教大学大学院文学研究科、「日本史演習」、2018.9～

(2) 学会

国内、日本歴史学会、評議員、2018.4～、理事、2019.7～